

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》○池森 康裕 高橋 由紀

【概 要】

日常生活を営むには、いくつもの生活動作が連続して行われ目的を達成している。介護を必要としている人の心身状態を正しく理解して、できる活動を活用することが自立に向けた援助には必要である。

本科目では、さまざまな生活場面での事例を用いて、総合的な介護方法を学ぶ。

【学習目標】

生活支援技術の実践的応用ができるよう、様々な事例から根拠に基づく支援技術を考え提供でき、自立に向けたより良い介護の充実が図れる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	授業の概要や達成目標を理解する。	池森
2	介護過程に基づいたケアの実施1	個別化の視点を持ち介護計画の立案ができる。	池森、高橋
3	介護過程に基づいたケアの実施2	介護計画を実施し、評価することで、介護過程の連続的なサイクルを理解する。	池森、高橋
4	介護過程に基づいたケアの実施3	介護のプロセスを科学的思考と問題解決思考に基づいて考えられ、意図的に行う介護の根拠を導き出すことができる。	高橋
5	介護過程に基づいたケアの実施4	介護のプロセスを科学的思考と問題解決思考に基づいて考えられ、意図的に行う介護の根拠を導き出すことができる。	高橋
6	OSCE事例演習1	認知症の高齢者に対するコミュニケーション方法を理解して、能力に応じた排泄ケアが支援できる。	池森
7	OSCE事例演習2	認知症の高齢者に対するコミュニケーション方法を理解して、食後の口腔ケアが支援できる。	池森
8	視覚障害	視覚障害のために阻害される安全性について、食事介助の事例から考え、どのような支援を行っていくべきか理解する。	高橋
9	利用者の力を活かすベッドへの移乗	左片麻痺がある高齢者の安全なベッド移乗と、体位変換方法を理解する。	池森
10	認知症症状への対応	事例をもとに、認知症のBPSDに対してどのような対応方法があるか、個人の尊厳を踏まえながら支援できる。	高橋
11	ベッド上の移動、環境整備	左片麻痺がある高齢者の麻痺側の保護を行いながら、自立に向けたベッド上での移動方法を理解する。また、移動によって不備が生じる環境について理解する。	高橋
12	かぶり物の着衣介助	右片麻痺がある高齢者が、自立に向けた入浴後の着衣介助（かぶり物）の方法と、安全な車いす移動について理解する。	池森
13	床からの立位、杖歩行の介助、段差の越え方	左上下肢に麻痺がある高齢者の、安全・安楽な床から（長座位）の立ち上がり（立位）方法を理解する。	池森
14	まとめ1	今までの事例を通して、利用者の健康状態、心身機能・身体構造、活動・参加目標、さらには個人・環境因子を総合的に判断して、自立に向けた支援ができる。	池森、高橋
15	まとめ2	今までの事例を通して、利用者の健康状態、心身機能・身体構造、活動・参加目標、さらには個人・環境因子を総合的に判断して、自立に向けた支援ができる。	池森、高橋

【評価方法】

介護OSCEと位置づけ、アセスメント試験50%、実技試験50% 合計100点で評価する。

【備考】

教科書 : 無し。講義時に資料を渡すので、ファイルにとして毎回持参すること。紛失しても再発行は行わない。

その他 : この科目は介護福祉士国家試験受験資格取得のための領域「介護」の教育内容「生活支援技術」に該当する。

【学習の準備】

動きやすい服装と上靴を準備すること。スカートや土足では講義を受けられないので注意すること。

講義・演習で渡した資料はファイルに保管して、毎回持参すること。

演習課題に関して、事前・事後学習（45分～90分程度）に取り組むこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2.1.3.4

【留意事項】

演習時は、学生同士のグループで進めていくので、遅刻・欠席は他の学生へ影響を及ぼしかねない。

- ・遅刻、早退、欠席は極力避けること。
- ・15分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする。
- ・遅刻・早退3回で1回の欠席としてカウントするので注意すること。

【実務経験】

池森康裕（介護福祉士）、高橋由紀（介護福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床および地域での介護分野の専門職として、実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。